

木材貿易が生物

多様性に及ぼす影響

戦略研究部門 生物多様性研究拠点

主任研究員 古川 拓哉

日本で消費される木材のうち、15年前は8割以上、近年は7割近くが外国産の木材です。世界中から必要な木材を輸入しているうちに、私た

ちの消費は、遠い海外の森林にも影響するようになりまし

た。木材貿易が生物多様性に与える影響を評価するために、森林伐採に脅かされる世界の絶滅危惧鳥類を対象に、2000年代前半の木材生産によって失われた生息地の面積から、種の絶滅リ

スクを推定し、生物多様性フットプリント^(注1)の指標としました。その結果、熱帯諸国の鳥類の多くが、何も対策を施さなければ絶滅の危機に瀕すると推定されました。そして、木材貿易関係の解析から、特に中国、日本、アメリカの木材消費がこれらの鳥類を脅かしていることが分かりました(図1)。ただし、木材貿易を止めれば良いという単純な話ではありません。もし各国が全木材を自給した場合、日本を含む各国で生息する絶滅危惧種への影響が高まり(図2)、世界全体の生物多様性フットプリントは逆に増加すると推定されたのです。私たちの消費が貿易を介して、遠い海外の生物にも影響していることを認識し、国内外問わず生物多様性に配慮した持続可能な林業を推進することが大切です。

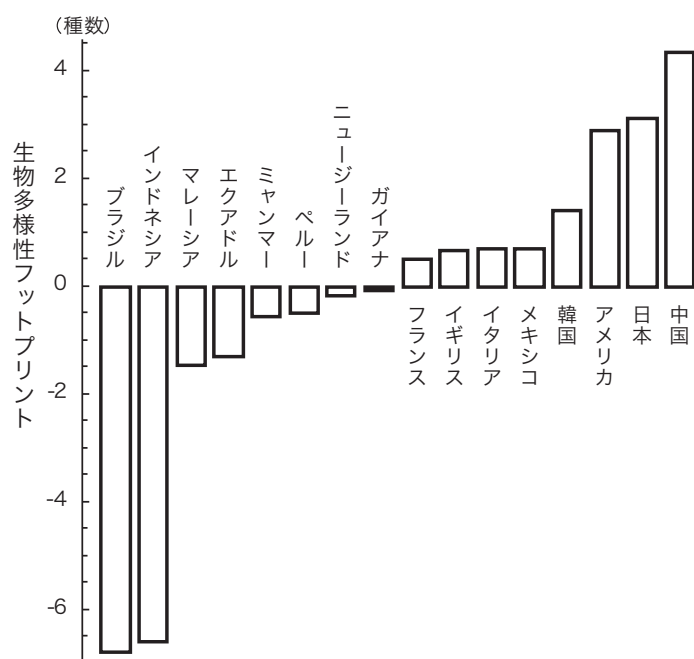


図1 2000年代前半における、世界の木材貿易の絶滅危惧鳥類を対象とした生物多様性フットプリント
負の値は輸出、正の値は輸入の影響を表す。図には輸出国・輸入国の上位8カ国ずつを示す。(Nishijima et al. 2016を改変)

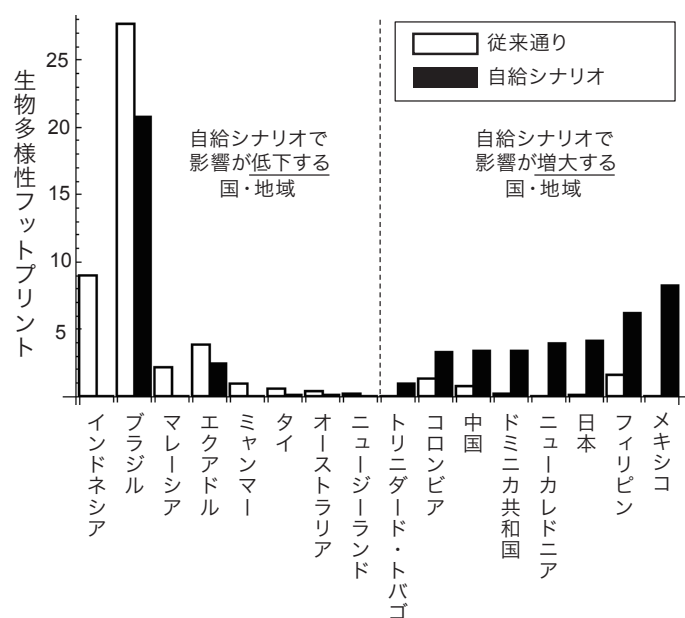


図2 2000年代前半の木材貿易パターンを継続した場合(白抜き)と、全木材を自給に切り替えた場合(黒塗り)の絶滅危惧鳥類を対象とした生物多様性フットプリントの比較
左は自給シナリオの方が生物多様性フットプリントが小さい国、右は自給シナリオの方が生物多様性フットプリントが大きい国(上位8カ国ずつを示す)(Nishijima et al. 2016を改変)

(注1) 生物多様性フットプリント: 人間の消費活動に伴う、生物多様性への負の影響を量的に表したものの。フットプリント(足跡)は、人間が自然をどれだけ踏みつけているのか(消費しているのか)を示すところから来ている。